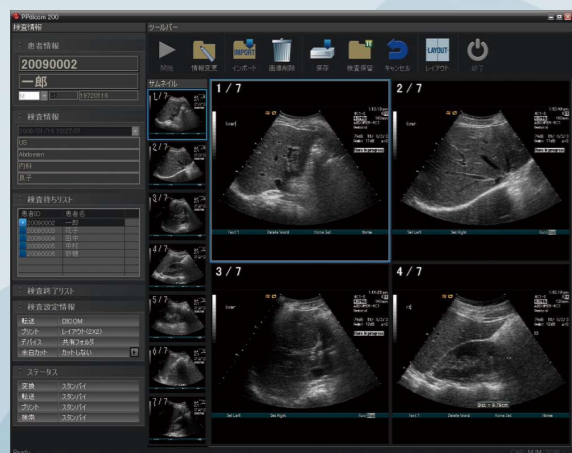


PPdicom200 PACSPLUS DICOM Gateway 200

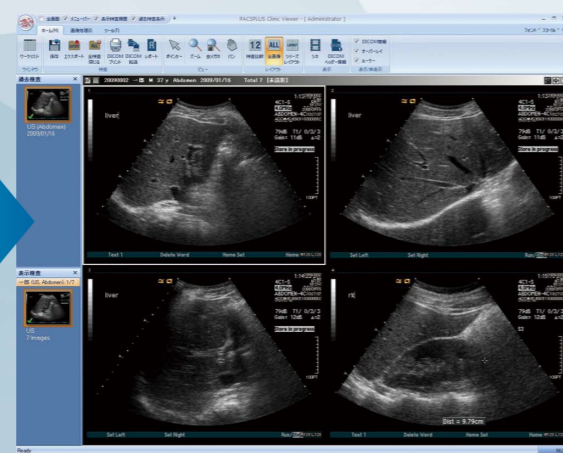
キャプチャーボードやスイッチを使わず JPEG 画像を DICOM に自動変換

使用手順 >

- 1 PPdicom200で患者情報を登録します。(選択または手入力)(MWM対応でIDカードなどと連動可)
- 2 画像取得ボタンをクリックすることでPPdicom200 viewer上にJPEG画像が表示されます。
- 3 検査終了ボタンをクリックすることで JPEG 画像がDICOM画像に自動変換され、DICOM Viewer やDICOM Serverに自動転送されます。
- 4 次の検査待ち状態になります。



PPdicom200画面



PP Clinic画面

患者 / 検査情報取得 >

● MWM 機能を利用し、検査待ち患者リストを照会・患者情報を入力することができます。また、手入力ミスを防ぐとともに入力時間を省くことができます。

- カードリーダー、バーコードリーダーでの入力可能 (特殊カードリーダーの場合、開発が必要になる場合があります)
- JPEG 医療機器側で患者情報を入力する必要がありません。

医療用ソフトウェアラインナップ

- ・ PACSPLUS Viewer (PPW) : 放射線科、神経外科、整形外科向け
- ・ PACSPLUS Focus (PPFocus) : 眼科向け
- ・ PACSPLUS Clinic (PPClinic) : クリニック向け
- ・ PACSPLUS Screen (PPScreen) : 集団検診向け

PPdicom200の最低動作環境

- ・ CPU:Pentium IV 3GHz 以上
- ・ メモリ:4GB 以上
- ・ HDD:Client:500GB以上、MSDE:1TB 以上(SCSI 推奨)
- ・ OS:Windows 7/10

PPdicom200の推奨動作環境

- ・ CPU:Core i5 3GHz 以上
- ・ メモリ:8GB 以上
- ・ HDD:Client:1TB 以上、MSDE:1TB 以上(SCSI 推奨)
- ・ OS:Windows 10

PACSPLUSについてより詳しい情報は<http://hesel.jp>をご覧ください。

開発元

株式会社 HeSeL(ヘッセル)
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 1-11-3 ディアレスト東京 8F
TEL 03-3553-1201(代表) 03-3523-5390(サービス)
FAX 03-3555-5122
<http://hesel.jp/>

「PACSPLUS」は株式会社HeSeLの登録商標です。

お問い合わせ先



安全に関する注意
製品を安全にお使い頂くため、使用前に必ず「取り扱い説明書」をよくお読み下さい。
記載内容は機能向上のため予告なく変更する場合があります。最新版についてはお問い合わせ下さい。

PPdicom200 PACSPLUS DICOM Gateway 200

共有フォルダを用いてDICOMタグを自動生成

PPdicom200は内視鏡、超音波診断装置、心電図、デジタルカメラ等から撮影されたJPEG画像をDICOMに変換するアプリケーションです。キャプチャーボードを使わないことで高画質のまま変換されたDICOM画像をサーバで一元管理し、必要に応じ検索・閲覧することができます。



主要機能 >

- ▶ 操作がとても簡単で使いやすいです。
- ▶ 簡単に患者情報を修正・編集することができます。
- ▶ ご使用中のPCにインストールすることで最小のコストで最大の効果が得られます。
- ▶ Viewer機能の搭載で、共有フォルダ内に送られたJPEG画像を一括表示、変換対象画像を選択することができます。(レイアウト変更・サムネイル表示機能)
- ▶ MWM機能の搭載で待機患者を確認することができます。
- ▶ 一度使えばすぐに使いこなせるユーザインターフェースを実現させました。
- ▶ キャプチャーボードやスイッチを使わないことで費用対効果の高い高画質のDICOM画像が得られます。
- ▶ 情報の一括管理により、よりの確で迅速な診療が行えます。
- ▶ ルータ機能搭載で複数のDICOM ViewerやDICOM Serverに一括転送、または、DICOMプリントできます。